

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 尾倉 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

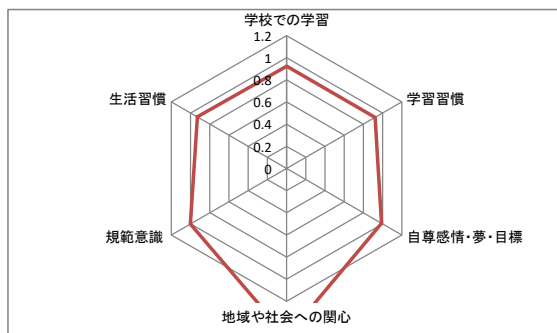
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	無回答率が低い。話すこと聞くことの正答率が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	敬語や慣用句などの語句の使い方の問題。	
	努力が必要な問題	漢字の書き取りや語句の使い方の問題。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	無回答率が低い。話すこと聞くことの正答率が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	登場人物についての説明として適切なものを選択する問題。	
	努力が必要な問題	文章を読んで、内容を整理して書く問題。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っている。図形分野は全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	数や文字式の計算、方程式や比例式を解く問題は、高い正答率が出ている。既習の知識をそのまま使う問題(球という名称を答えるなど)はよくできている。	
	努力が必要な問題	一次関数の単元では、傾き、切片、増加量などの言葉と一般形の式は結び付いているものの、それらとグラフの形が結びついていない様子である。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っている。資料の活用分野は全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	与えられた情報から必要な情報を選択する問題。	
	努力が必要な問題	数の規則を、文字を用いて説明する問題。条件替えて図形の証明を考える問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国正答率に比べて、物理的分野と生物的分野の正答率が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	自然現象の知識・理解は高い。観察・実験の技能についての正答率が高い。	
	努力が必要な問題	地学分野の正答率が低い。自然現象への関心が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・家で自分で計画を立てて勉強する生徒は、全国平均を下回っている。定期考査の取組を計画的にさせたい。	
・家庭での学習時間が、全国平均を若干下回っている。尾倉ノートや課題プリントを徹底させたい。	
・将来の夢や希望をもっている生徒は、全国を若干下回っている。夢を実現させるために、職業講話などで具体的な目標をもたせたい。	
・毎日、朝食を食べているについて、全国平均を若干下回っている。学校通信などで、朝食の重要性を啓発していきたい。	
・地域や社会への関心が、全国平均を大きく上回っている。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を計画的に行うように、尾倉ノートや課題プリントを徹底させる。 ・授業で、自分で考え意欲的に取り組むように、グループ討議など授業改善を推進する。 ・「書く」分野の正答率が低い。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、書く活動を位置付ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・学習方法をまとめた「学習の手引き」や「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。 ・尾倉ノートや課題プリントなどで、家庭学習習慣や基礎学力のより一層の向上を図る。 ・学校便り、学校HPで、学力・体力向上ステップアップについて知らせる。
